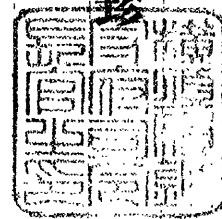


二〇二九

大正四年四月十五日

横須賀鎮守府司令長官 伊地知季珍

海軍軍令部長 島村速雄 殿



戦時日誌提出ノ件

一横須賀鎮守府戦時日誌 第八回 壹冊

右提出ノ

別冊壹冊添

終

海軍

横須賀鎮守府戦時日誌

第八回

1322

三月一日 月曜 晴

臨時南洋防備隊参謀ヨリ参謀長宛電報 一日前時上分着

加賀丸ニ大物品搭載方取計ヲ乞フ

トラック、バラオヤツア 滿州最上ニテ要ニ糧食一月

分(品種數量ハ衣糧科ニ承知又本品ハトラックニ鹿兒

島丸ニ積換ヘ送遣ノ事定)

ニ往航、際トラックニテ滿州ニ補給用ニ糧炭

三。〇。噸

三附屬軍艦ニ補給シ得ル様請ルヲ滿載

四當司令部各守備隊各艦各無線電信所

宛、郵便物ヲ送品

海軍大臣宛報告

横濱接添第三二號

大正四年三月一日

司令長官

海軍大臣宛

南洋群島ヨリ後送外人ニ関スル件

南洋群島ヨリ加賀丸便乗三月十日横濱領ニ歸着スル外人ニ関シ

調査シテ事柄尤記ノ通リ候

右報告ス

尤記

一人

不姓名

ドクトルギルシュナー

五十四歳

同人妻フリーダー

職業 醫官

國籍 獨逸國 出生地 北ベルグ 現在住居ナシ

乗船地 乗船 泊ナシ 南海丸 便乗 ヲツラクニテ加賀丸ニ

轉乘

本行先地 米國經由本國

軍事情報 ナシ

遠外部隊指揮官、採見處置

(甲) 永野第三特別陸戰隊指揮官、横須賀鎮守府

司令長官宛報告

退去獨人ニ関スル件

トリトルギルレヤ

右者ヲナシバ島ニ於テ醫官ニ職ヲ採ルコトニ於テ我軍本島
占領後ニ於テ自己が醫官先ノ故ヲ以テ引續キ我軍本島

一般住民、治療、従事し我軍に於ては顧問名義ヲ
 與へ置キ先トヤリ人物温厚ニ多量ニ軍政ヲ阻害ナカ
 如キ言動ヲ認メザルニテラス占領當時の我軍政ヲ補助
 セレトアリ、本島、秩序恢復後十月十四日付軍醫官
 ラシテ一般住民ノ診療ニ従事セシメラ以テ最早本島
 ニ要務ナラシ妻ト共ニ日本ニ歸テ歐洲ニ退去ス希望シ
 付是レヲ許可セシテヤリ我軍ニ利益ヲ與ヘレ者ニ付
 相當、便宜ヲ與ヘラレ度
 右報告ス

(乙) 水人所持の退去許可證は如し

退去許可證

獨逸人

ドクトルキルヒナー 五十四歳

同人妻フリーダー

右者従前東カロンボヤ島に於テ醫官職ニ従事セシ

スルモ今日本ヲ經テ歐洲ニ趣キ度旨願出ラタリ付

尤記^條件ヲ附シ退去ヲ許可セシコトヲ證明ス

一ボヤヨリ日本ニ至ル行程ハ日本船舶ニ便乗スルコトヲ許ス

但シ之ニ要スル實費ハ各自支辨スルヲ要ス

二日本到着後ハ最近ハ便船ヲ日本帝國領土ヲ去ル

ヲ要ス

三携帶スル私有物品ハボヤ島退去ノ際日本軍ノ

査檢ヲ經ルヲ要ス

四携帶スル私持物品ハ人手ヲ運搬シ得ル程度ヨリ大

ナルハカラス又其數量ハ船舶都合ニテ制限ヲ付スルコト

アルハシ

五、^北島之^北城^北崗^北元^北私有^北財產^北、日本^北軍^北ニ^北於^北テ^北保^北管^北責^北
ニ^北此^北也^北其^北カ^北以^北テ^北各^北自^北、^北於^北テ^北其^北保^北管^北者^北ヲ^北定^北メ^北委^北任^北シ^北
置^レク^レ

大正四年一月六日

^北島^北 日本^北帝國^北陸^北隊^北指^北揮^北官^北
海^北軍^北少^北佐^北 永^北野^北 永^北三^北 (印)

二、支那人

イ、姓名 吳英的 黃樹

ロ、職業 社^北會^北社^北備^北人^北

ハ、國籍 廣東

ニ、^北某^北地^北及^北某^北ヤ^北ル^北ト^北ニ^北テ^北南^北海^北丸^北ニ^北便^北乘^北 ト^北ラ^北ク^北ニ^北テ^北加^北賀^北

丸^北ニ^北轉^北乘^北

本行先地 香港

（連外部隊指揮官採リル處置

ト會社ヨリ附英シタル書類

（書類畧ス）

ナシ

午後三時五十分加賀丸入港

Table with multiple columns and rows, mostly blank or illegible.

81

81

三月二日 火曜 曇

九通牒受領
海令機密第五三號

大正四年三月一日 山岡軍令部副官

水村横領領鎮守村考謀長殿

戦時日誌、件

三月一日以後各鎮守村各要港部（青島要港部を除く）麾下各
部、戦時日誌、九記、除キ今次、戦役ニ直接關係凡事
務ニ從事シタル場合、外提出スルニ及ハス
右依命申進ス

警備艦艇 特設船舶 特設望樓

左記

大正四年二月十八日

常松臨時南洋群島防備隊參謀

木村横領領守府參謀長殿

占領品處分ニ関スル件

右ニ関別紙通リ白武軍務局真宛申送り候条

御参考迄

右通知ス

大正四年二月十八日

(別紙添)

別紙寫

大正四年二月十八日

百武軍務局員宛

常松參謀

占領品處分關件

南洋群島各地占領品關件現況左記通り御
含置相成度

右申進ス

左記

一各地占領品ハボネバ及サイパンノモリノ一部ハ横須
賀ニ送リ先ノ其他ハ大体其儘ニモ居レリ
二各地占領品ハ當時第一第二南遣技隊ヲ夫夫レ

報告せしむルに實際ト相違セルモノアリ
 去ル一月十日 經理局長ヨリ其品數 quantity 等問合セヨリ
 目下取急キ 調査中ニテ 三月中旬 當地 豫定ノ
 南海丸 便ニヨリ 委細 書面 宛送シ 得ハキ 見込
 三元第一 南遣 技隊 司令官ヨリ 上申ニ 對シ 認許 相成
 先 押收 物件 各地 (サイパン 及 バラオ 以外) 使用 數ハ 其
 後 當司 令部 ヲ 置カレタル 各地 状況 變更ト 伴
 ヒ 取捨 改正ヲ 要スルモノアリ 此等ハ 更ニ 取纏メ 右同
 一便ニヨリ 上申 認許 仰カレハキ 予定ナリ
 四 前號 各地ニ於テ 使用ヲ 要スルモノ 外ハ 若シ 運送
 船 便ニヨリ 横須賀ニ 送ル 予定ナリ
 備考
 一 占領品 以外ノ 物品トシテ 扱ハベニ 於テ シヤルンホルスト

グナイゼウニウニウハシベルト等、私月若干残リ居ル
 元此等ハ戦上好遇ノ趣旨ヨリ適當ノ方法ヲ以
 ラ或時機ニ遺族等ニ届クル様ニスルヲ良ト思
 考スルニ付追テ横須賀ニ送リ始末ヲ委托スル
 積リナリ
 ニヤツクニ獨艦乗員ヨリ本國ニ送ル私信若干
 其儘残レバ此又整理上追テ横須賀ニ
 送ル積ナリ

加賀丸便乗者ニ関シテ、通海軍省副官ヨリ通知アリ
 左記通乗ル五名貴地出帆ノ筈ニ加賀丸ニ便乗
 南洋渡航方請願、未許可相成候條可然御
 取計相成度

貴族員議員 石黒五十二
 日本兵船同 乃代米太郎
 業組合員 見市条三

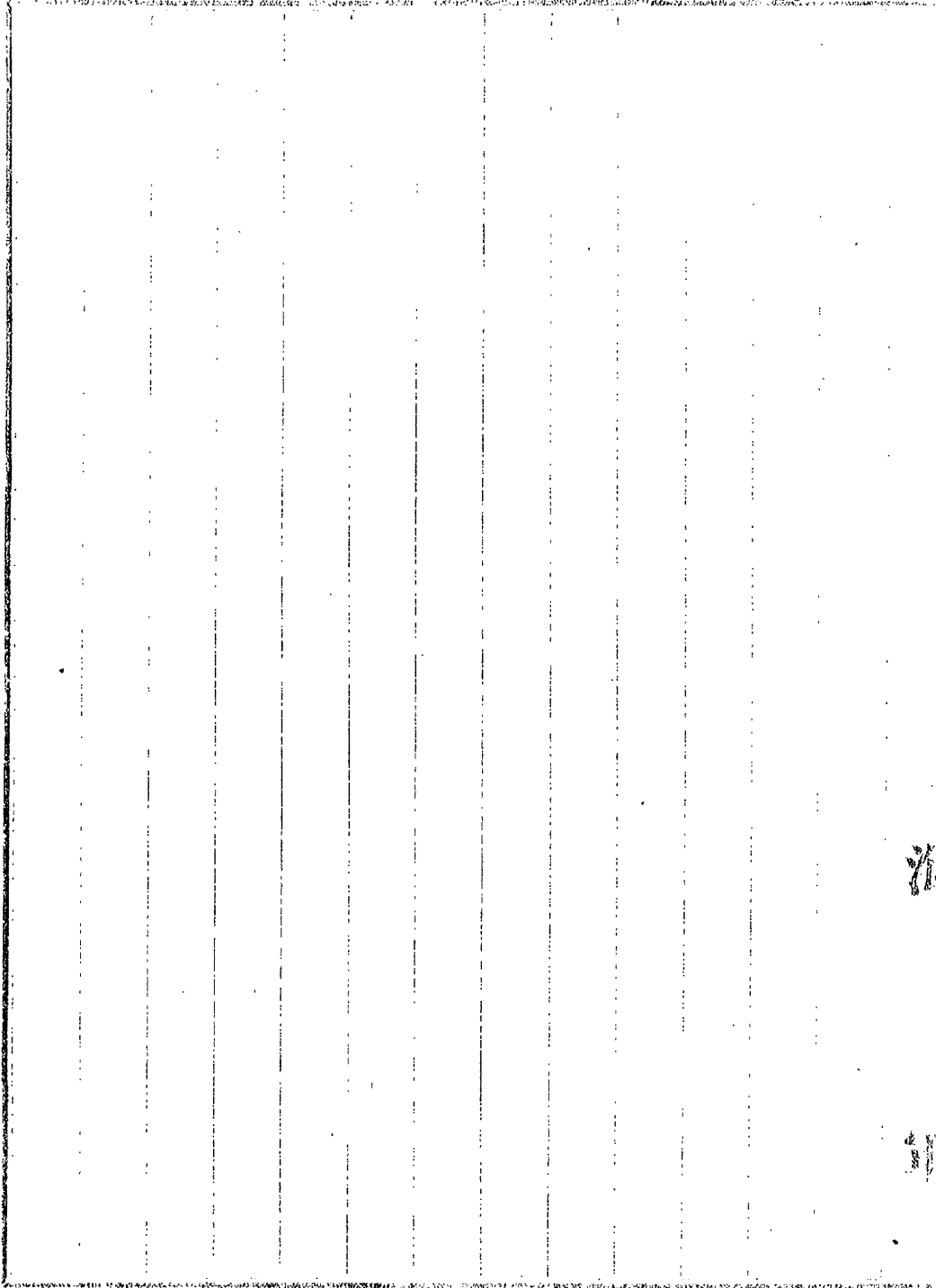
豫ヲサイパン守備隊長ニ對シテ國獲雜役船要目ヲ照會シ

タル回答左ノ如シ

國獲雜役船要目

後着艦船種長	幅	深	積貨	現	状	評價	概	形	現在使用	記事
一	大形 三〇七	三	サワラ	キール破損 ストレッカー 全部	四五〇	八艘五	短艇庫	修理中 使用し得ず		
二	中形 二〇〇	二	サワラ	ボトムボルト 全部 キール破損 ストレッカー 全部	二五〇	八艘五	備置	使用し得		
三	中形 一五〇	二	サワラ	キール破損 ストレッカー 全部	二五〇	六艘五	短艇庫	修理中 使用し得ず		
四	中形 一〇〇	一	サワラ	キール破損 ストレッカー 全部	二五〇	六艘五	短艇庫	修理中 使用し得ず		
五	小形 四〇	一	サワラ	キール破損 ストレッカー 全部	二五〇	四艘五	短艇庫	修理中 使用し得ず		

六	大形 二五七〇 五五	使用差支ナレドモ完全 四五〇	五 使用 官管 者
七	傳馬 七〇〇 一五〇	船二割目より多少漏水 一五〇	七 短船庫 時使用 久
八	兵 六七七 二〇	使用差支ナレ 二〇	六 潜 地 短船庫 小修理 要
九	カ 五 腕 破損 ナレ		
備考	鹵獲雑役船ハ何レニ 分ナレ為メ皆船体ヲ 地へ輸入當時價格ト モナリ現時ハ少ナク モ其ノ半額以下ナ 可キカ	年々ニシテ且保存 手入不充 又記入評價 推定 セル	



76

81

三月三日 水曜 晴

海軍大臣ヨリ電報

三月三日午前十一時五分着

加賀丸ヲ後送ノ獨人ハ本戰役間敵國ノ軍務ニ服セシ
ルコトヲ宣誓セシメ其妻及支那人ニ名ト共ニ解放シ
地方官憲ニ引渡シ最近便ヲ帝國領土外ニ退去
セシムヘシ

海軍省副官ヨリ參謀長宛電報

三月三日午後二時五分着

露國大使館附武官ヨリ情報ニヨレハ目下浦塩斯
德港ニ在泊中ノ米船ハナメタルレハ不日本卸テ石
炭滿載ノ上トステシレ所左地ニ向フヤノ噂アリト本件

各地税関へ通知ノ手筈ヲナシ置ケリ

海軍省ヨリ電致

官房機密第一八四號ノ五

大正四年三月三日

海軍次官

司令長官宛

運送船鎌倉丸ニ関スル件

去ル月十日附官房機密第一八四號ノ三訓令依リ
第四戰隊常盤千歳補給爲メ目下布哇附近
迄行動中、鎌倉丸ハ軍艦之間、救助任務上
同艦所在地方固ハ行動セシム必要無之候条、
此旨御了知相成度
右依命申進ス

右閣元來鎌倉丸、映へん訓令、特令ナレハ
布哇附近ヲ掃投ヲ命レタルモ、故ニ前号ノ通
牒ニ就テ、鎌倉丸ニ對シ何等ノ訓令通牒ヲ發スル
必要ヲ認メサルモ、念メ左ノ通電報セシメタリ

參謀長ヨリ第四戰隊司令官宛電報

三月三日午後六時五分

左記通海軍次官ヨリ長官宛通知アリ、可然取計ハレシ
鎌倉丸淺間救助仕務上同體於在地ノ派遣ノ要ナシ

軍第五八号ニ見南洋占領群島航路標識設置方

案左ノ通計畫ス

南洋占領諸島航路標識設置作業豫定

一材料ハ凡ソ横須賀港務部在庫モノヲ以テ一時充當

スルモトス

ニ當地ニ於テ該材料ヲ準備スルニ三日間ヲ要シ運送船

ニ搭載一日ヲ要ス

ニ設置場所ト陸上トノ關係ヨリ一概ニ予定日數ヲ

予定シ難キモ若シ運送船ヲ標識設置附近碇

泊レシ船員ノ助力ヲ得ルモトシテ予定ハ先ヨリ大過

ナカラント信スルガ故ニ以下作業予定ハ之ニ基キ立

案ス

四 航路標識ノ材料ノニ様トス

甲 ハ全然航路標識ニモトシテ材料設置モ多

少年數ヲ要シ從テ浮標設置航練セル港務部

ノ年々設置ヲ要ス

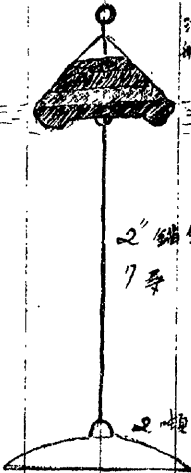
乙 ハ多少航路標識ニ相違セル莫クハ大体ニ於テ

類似レタルモノヲ用ヒ材料モ少ナル故南洋守備隊為

レクハ軍艦ニテ設置シ得ルモノトス

五甲航路標識浮標設置作業予定

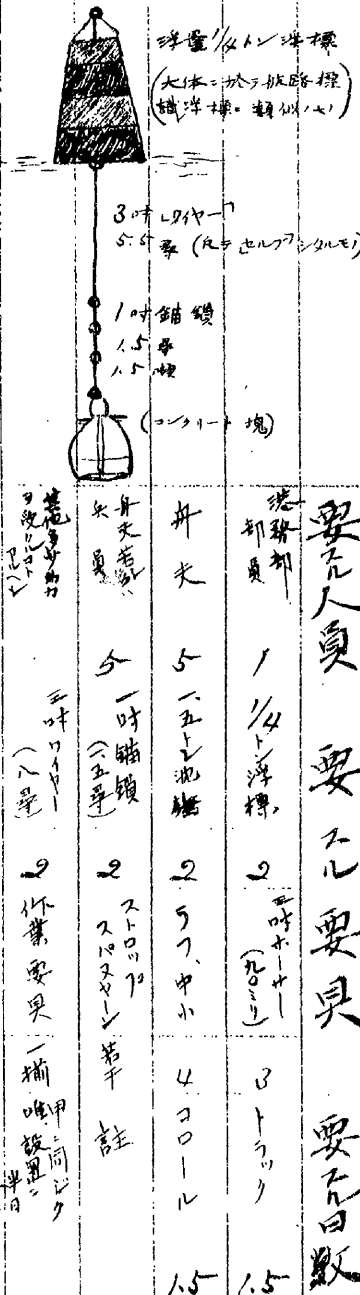
横濱
四
津
中
浮
標



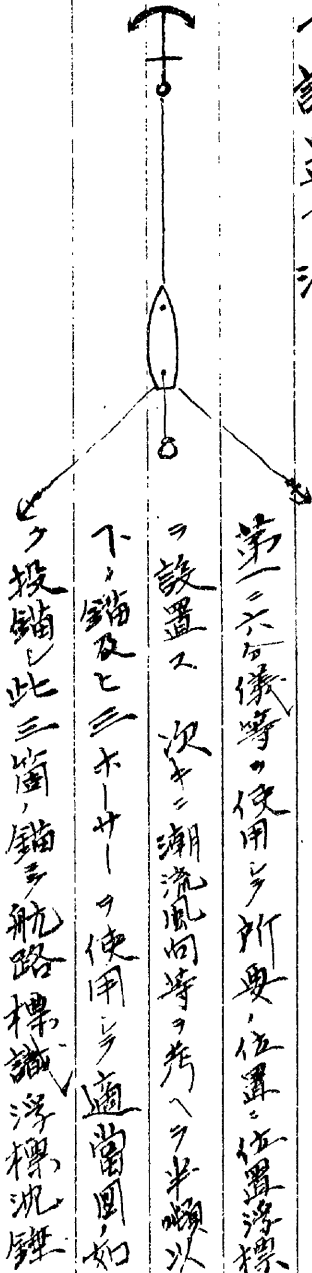
港務部 卸員	1 4ト浮標	2 三時半 (5ト)	3 トラック	2	要ス人員 要ス具 要ス日数
同上	1 5ト浮標	2 5ト半 (5ト)	4 コイル	2	
舟夫	10 ニト半 七ト半	2 カトロック カトヤン	若干 設置 浮標		
運送船 傳馬船 イ中 力要ス	3 傳馬船 (5ト)	3 作業要具 一桶 搭載 設置	2 晴天		
	3 位置浮標其他				

六、乙 航路標識浮標設置作業予定

要人負 要スル要具 要否日数



七、設置方法



錨鎖ヲ搭載シ先傳馬船ヲ繫留シ三ホーサーヲ伸縮ニテ正レク位
置浮標ノ所ニ沈録ヲ持テ行キ漸以錨鎖ヲ延ハシ沈置ス
トス
八舟船トシ適當ノ船艇ヲ更テ守備隊若シテ軍艦ヲ借用ス
ヲ得ハ最モ便利トス

午後九時十分高崎丸入港

三月四日 木曜 晴

左報告受理

大正四年三月二日

日敷波九指揮官海軍大尉菊地豊吉
横須賀鎮守府司令長官伊地知季珍殿

戦利品ノ件

左記戦利品膠州灣外ニ於テ掃海收容レタルモノ三ヶ所ニ於テ
ヲ紀念トシテ敷波九策員一同ヨリ遊就館ニ寄贈被致候
間此段申添候
右報告ス

一水雷缶壹個

一鍾量破片壹個

(終)

南洋群島派遣者之関、海軍省副官、副官宛通牒

本件之関、去月二十六日付官房第五五六號ノ三ヲ以テ申進

置候次第之相之候處、右ノ内左記七名ニ来ル五日貴地先

ノ加賀丸ニ便乘渡航、トシテ變更候條可然御取計

相成度

左記

東京帝國大學 農科大學教授 櫻井 原 十太

理科大學助手 柴田常惠

醫科大學副手 醫學士 長谷部 亨

理科大學囑託員 松村 瞭

大學院學生 青木 廉三郎

雨宮 首作

醫科大學副手 池田善雄

(裏キニ幸雄ト見ル該紙)

加賀丸便乗者ニ関シ海軍省副官ヲ副官宛通牒

日本島學會ヲ標本採集方爲メ寺岡直ニ南洋ニ派遣
度致請願有之加賀丸ニ便乗許可相成矣余可然御取
計相成度

右申進ス

進子同人ニ對シ「トロッ」島ニ於テ下船スル旨申聞置候

加賀丸便乗者ニ関シ海軍省副官ヲ本府副官宛通牒

海軍用船便乗ニ関シ件

本件ニ関シ別紙甲号通南洋貿易株式會社請願
封乙号通申進矣余可然御取計相成度

右申進云

別紙二葉寄

別紙甲號寫

便乘願

一便乘者

野田金一

明若十四年七月廿日生

島岡貞助

明若八年七月十八日生

田中卯作

明若十四年三月十日生

手島茂

明若十五年七月廿日生

一乘船地横濱賀港

一 下船地 南洋トラス島

一 便裝理由

右 當會社負有之今般任地へ向て赴任為致度候共
目下同方面行便船無之候付最近、却用船便ヲ以テ
便裝渡航、儀御許可相願度此後及請願候也

大正四年三月二日

東京橋王南新堀二番十番地

南洋貿易株式會社

海軍大臣 入代六郎 殿

乙號寫

官為機密第六。號ニ

大正四年三月三日

海軍省副官

南洋貿易會社宛

海軍用船便乗ニ関スル件

貴社請願ニ係ル野田金外ニ知海軍用船便乗南洋

トラツト島渡航件ニ大記條件ヲ確守セラルルニ於テ

來五日横須賀港加賀丸便乗方許可セシ候条

詳細儀ハ横須賀鎮守府ニ就キ承合セラレ度

大記

一便乗船乗着地矣及其日時ニ就テハ口外セラルト

ニ南洋ニ於テ目撃セシ軍事行動及其施設ニ切口外セラルト

三群島外ニ於テ帝國官憲ノ命令ヲ遵守スルコト

大申進ス

進テ商品携帶不相成様申添候

海 軍 年

南洋群島派遣者之関副官、海軍省副官宛廻牒

本件関二月二十六日附官房第五五六號、三御申越
了承然、本月下旬出港、運送船、南海丸、有之候處
同船、便乘客室、設備、為、便乘者、萬事困難
ヲ念、カトト被存候、進、四月下旬出港、鹿兒島丸、便
乘、セ、ラル、カトト、相成候、ハ、諸事、好都合、カト、存候、ハ、念
為

右申進ス

三月五日 金曜 雨

松村防備隊司令官ヨリ電報

三月五日午前七時五十分着

千早三月三日ヨリ出港同民政區一属直志諸島ヲ
經ラ三月十二日ホヤハ着、予定

大臣宛上申

横領第一五八號三六

大正四年三月五日 司令長官

海軍大臣宛

戦利品元受ニ関スル件

一月十日受領、永野第三特別陸戦隊指揮官送附係

品名	数量	見積代價	代價	備考
魚雷頭部	参個	五〇〇〇	五五〇〇〇	
發火器受金	四個	五〇	五〇〇〇	
演習用爆發尖	貳個	壹〇〇	貳〇〇	
實用爆發尖	貳個	壹五〇	参〇〇	黒塗箱二格附レリ先多
手投爆發彈	八個	五〇	四〇〇〇	黒塗箱四個二格附レリ先多
手投爆發彈模型	壹個	壹〇〇	壹〇〇	
手投鋸	貳個	〇五〇	貳〇〇	

別紙過 参考兵器ニ元受スハキ七一

戰利品中別紙記載ノ通り兵備品ニ元受處分致シ
 度候条御認許相成度
 右海軍戰利品取扱規程第六條依リ上申ス

別紙一葉附

記事

漢 年

鐵製信管	參個	〇志。	〇番。	火藥、除長ノ考考トス
黃銅製信管	參個	〇志。	〇番。	〃
同	參個	〇志。	〇番。	〃
同	參個	〇志。	〇番。	〃
彈頭信管	參個	〇志。	〇番。	〃
傳火藥筒	參個	〇志。	〇番。	〃
艦營	需品	價典品	元受	スハキモノ
小蒸汽機用敷物	或個	志。	〇番。	〃
艦營	需品	消耗品	元受	スハキモノ
腰掛蒲團履	五八枚	一社	〇番。	〃
暖簾及窓掛	七枚	〇番。	〇番。	〃
窓掛	七枚	〇番。	〇番。	〃
蒲團履	八枚	〇番。	〇番。	〃

大臣宛上申

横鎮第一五八號、三七

大正四年三月五日

司令長官

海軍大臣宛

戦利品元受_二関_一元件

一月十日受領山屋第一南遣枝隊司令官送附_二係_一ル

戦利品中別紙記載_一通_二兵備品_一元受處分致度

候答御認許相成度

右海軍戦利品取扱規程第六條_一上申_一ス

別紙_一差_一用_一済_一仕_一

別紙_一專_一艦_一營_一需_一品_一貸_一典_一品_一元受_一ス_一キ_一マ_一

品名 数量 単價 見換 代價 代價 記事

糸製網 壹張 壹〇〇〇 壹〇〇〇

海軍

港用品トシテ元受スヘキモノ

六寸（シロホヤ）志房 一紙 武。志。九。〇。〇 重量九十五斤
五寸（シロホヤ）志房 武。志。八。〇。〇 重量八十斤

大臣宛上申

横鎮第五八號之三

大正四年三月五日

司令長官

海軍大臣宛

戦利品棄却ノ件

一月十日受領永野第三特別陸戦隊指揮官送付ニ
係別紙、戦利品使用ノ見込無之ヲ以テ、戰利品元受度致候
處危險ニ付投水棄却致候條御認許相成度
右申上
(別紙一通附送)

別紙写

品名 数量 単位 価格 代價 記事

空放四半箇 四個 五〇〇 代價 〇〇〇 小銃半箇空放五〇個入使用、見込ナレ
投水處分至當ト認ム

鐵製信管 志八個 〇〇〇 代價 志八〇 使用、見込ナレ 投水處分至當ト認ム

黃銅製信管 志五個 〇〇〇 代價 志五〇 右同

黃銅製信管 九個 〇〇〇 代價 〇九〇 右同

同 志八個 〇〇〇 代價 志八〇 右同

彈頭信管 志五個 〇〇〇 代價 志五〇 右同

傳火藥筒 七六個 〇〇〇 代價 七六〇 橋中、如キ多
使用、見込ナレ 投水處分至當ト認ム

大臣報告

横鎮第一五號、三九

大正四年三月五日

司令長官

海軍大臣宛

戦利品受領ノ件

葡地敷波丸指揮官送付ニ係ル別紙目録ノ戦利品本

月三日能野丸ヨリ受領

右海軍戦利品取扱規程第六條ニヨリ報告ス

別紙戦利品目録一通附付

別紙写

戦利品目録

品名	数量	記事
機械水雷	壹個	
同錘量破片	壹個	

南洋ヲ復送外人ニ関シ大臣へ報告

横鎮機密第三二二號三

大正四年三月五日

司令長官

海軍大臣宛

南洋群島ヨリ後送外人聞之件

横鎮機密第三二二號報告、南洋群島ヨリ後送外人

中「ドクトル」ガルレーヤールニ對シテ本村泰謀立野徳郎

主理小池瀧澄ヲ派遣シ別紙、用リ宣贊セシメ同人

妻「フリーダー」支那人吳英的、横樹ト共ニ横須賀

警察署巡查部長副田純作ニ引渡シ港務部汽船

「搭乗」横濱ニ出發セシメ候

右報告ス

(別紙一葉添)

SCHWURSCHRIFT!

Vor- und Zuname: Maß Girschner

Nationalität: Deutsch.

Wohnort: —

Ort und Datum der Geburt: 12 März 1861 Kolberg.

Ich, der oben erwähnte (Azt) (Girschner) von der durch japanische Flotte hergeschlagenen Insel (Ponape) schwöre hiermit dass ich, so lange der Krieg zwischen Japan und Deutschland dauert, in der kriegerischen Dienst gegen Japan in keinerlei Weise eintrete und ich schwöre auch mit nächstem Schiffe vor Yokohama Japan zu verlassen, sobald ich freigelassen wird

Ich erkenne ferner, dass der kaiserlich japanische
Korvettenkapitan Tachino mich unter dieser
Bedingung freilässt

Diese Schwurschrift wird am (j. M. 1855) in Yokosuka
in „Duplō“ ausfertigt, die mit meiner Handschrift
versehen ist, und die eine ~~dem~~ ^{dem} Person T. Tachino
ingerichtet, während ~~ist~~ ^{die} andere ich selber
beibehalte.

Medizisabrah fr. Jirschner.

牛彼野野松五介様蒙九人宛

三月六日 土曜 晴

午前六時三十分加賀丸出港

松村防備隊司令官より電報

三月六日午前八時三十五分着

南越丸三月三日ヨロイ島着 三月四日ヤツカ島に經テ

トラツク島に電報發

松村防備隊司令官より電報

三月六日午前九時三十分着

鹿兒島丸ヨロイ島に電報發 三月二十八日

ツラツク發

左記戦利品使用見込ナキ付 經理部會計官更ラシテ
通常物品ニ元受セシム元受終ラハ其旨通報

告スヘキコト命レタリ

品名 数量 単位 代價 記事

鐵製倍管 志八個

志八。備見込ナレ扱水處分至當ト認め

黃銅製倍管 志七個

志七。志七。同右

同 正 志九個

志九。志九。同右

同 正 志八個

志八。志八。同右

彈頭倍管 志七個

志七。志七。同右

傳火筆筒 七六個

志七。七六。同右
「倍管、如キモノ」

空板四半筐 四個

志四。志四。同右
小銃筆筒、志五。五、五個入レ

大砲要果筐 志一個

志一。志一。使用、見込ナレ履下ト認定ス

黒塗箱 志一個

志一。志一。同右

机 志七個

志七。志七。同右

前 坐 四。志

志四。志四。同右

大記戦利品使用見込付通常物品元受せしめん旨大臣宛

報告書

品名	数量	見込額	代價	備考
砂時計	志 個	志 〇	志 〇	使用見込し廉品と認定ス
小銃	志 銃	志 〇	志 〇	使用見込し廉品と認定ス
鐵製信管	志 個	志 〇	志 〇	備見込し廉品と認定ス
黃銅信管	志 個	志 〇	志 〇	備見込し廉品と認定ス
同	志 個	志 〇	志 〇	備見込し廉品と認定ス
同	志 個	志 〇	志 〇	備見込し廉品と認定ス

同	正	或八個	○克	〃八〇	備見	〃〃
彈頭信管	考	七個	○克	〃〇	〃〃	〃〃
傳火藥筒	七	六個	○克	〃〇	〃〃	〃〃
空放日半筐	四	個	五〇	〃〇	〃〃	〃〃
大砲置筐	七	個	○克	〃〇	〃〃	〃〃
黒塗箱	考	七個	〃〇	〃〇	〃〃	〃〃
机掛	七	枚			〃〃	〃〃
前並	四	卷			〃〃	〃〃
紐類	三	個	五	〇	〃〃	〃〃
鐵燐用破之箱	七	個	〃〇	〃〇	〃〃	〃〃

大正十一年
 領事館宛電報
 電常盤二傳へラレタレ

三月廿日午後二時五分発

第四戰隊司令官宛横鎮參謀長宛、通リ海軍次官
 長官宛通知アリ然ルベク取計ハシメシ
 鎌倉丸、浅間救助仕勢上同艦所在地ハ派遣ノ要
 本電、三月三日無線電信ヲ發信セシテ、不達不明ナリ
 本電、三月三日無線電信ヲ發信セシテ、不達不明ナリ
